

名古屋城天守閣を撮る

15日の国際シンポジウムの報告で名古屋城を紹介するため、写真を撮りに出かけた。

土曜午後ということもあり、たくさんの観光客が訪れていた。外国人観光客も目についた。久しぶりに天守閣に登り名駅界隈の超高層ビル群をカメラにおさめた。研究室のベランダから眺めるビル群とは、また違った感じで、建設中のビルもよく見える。



天守閣をうまく撮るために歩いていたら、東南隅櫓（すみやぐら）が公開中という案内があった。櫓は城郭を構成する重要な建物で、城地の4隅の石垣上に建てられたものを隅櫓という。この東南（辰巳）隅櫓は名古屋城の建築が始まった1612



年頃の原型を伝える建物で、外観は2重だが内部は3階となっている。3階に登ると、案内の人がここから撮る天守閣がいちばん美しいと教えてくれた。さっそく窓から手を出してカメラを向けた。たくさん撮った写真の中でも、最高に美しく気に入ったのが、この写真である。さて、階段を降りようと下を見ると、かなりの急勾配なのに気づいた。

腰痛もちに下り階段がこたえるが、おそろおそろ降りていった。こうした「苦労話」を交えて、報告でこの写真を紹介した。

名古屋市の研究会でも話題になったことがあるが、天守閣横に車椅子などのためのエレベーターが設置されている。必要な施設であるが、技術的に困難かもしれないが、設置方法にもう



すこし工夫がほしかった。それにしても、広々として歴史を感じさせる名古屋城は、名古屋の重要な観光スポットであることを改めて感じた。（2008年11月18日 記）